

2024年度 町田市立町田第二小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年3月31日

学校教育目標	思いやりのある子ども 考える子ども じょうぶな子ども	学校経営の重点	本校の子どもたちに本当に必要な学力を育む授業力の向上
○目指す学校像……①子供が学校へ来ることを楽しみと感じ、喜びをもって学び、自分が大切にされていると実感できる学校(Study) ②教職員が互いを認め合い、高め合い、協力する学校(Scrum) ③迅速に対応できる学校(Speedy) ④確実に実行できる学校(Surely) ⑤保護者と地域と連携し、安心・安全な学校(Safety)		重点目標の成果と課題 (成果)学校経営案や町田市教育プラン24—28にある、「学び続ける力」を意識して教員が授業改善を進めている。児童に教える授業から児童の学びを支える授業に取り組み始めていることも、児童が意欲的に学んでいることにつながっている。 (課題)地域環境及び人材を生かした学習において、深い評価となっているが、各教科や総合的な学習などを通して、児童の学びが地域や保護者の方々とながら、関わったりできるものにと考え、来年度、力を入れて取り組んでいきたいところである。	

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○ %	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	隣接する芦ヶ公園、原町田商店街など地域の教育資源を生かした教育活動を展開する。	4.各年6回以上の実施 B.児童アンケート満足度80%以上 2.各年3回以上の実施 1.年間2回以下の実施	3.3	B	A.児童アンケート満足度90%以上 B.児童アンケート満足度80%以上 C.児童アンケート満足度70%以上 D.児童アンケート満足度70%未満	82	A	・教員はVCと連携を図り、芦ヶ公園や原町田商店街、農家さんなどを活用して、教育活動を展開することができた。また、普通遊びやお見学等での学習協力者を新規に開拓することもできた。 ・HPや学校だより等を活用して地域、保護者への情報発信をすることができた。また、保護者アンケートにおいても、肯定的な評価を約90%以上を得ている。	・地域連携担当教員とVCとの連携はできている。しかし、その両方で地域と連携した学校教育活動年間計画を直視し、高学年においても、地域とつながりをもった学習を展開できるようにしていきたい。 ・保護者アンケートをフォームで回答いただいているが、年々回答率が下がっているのが現状である。回答率を上げていくために、担当教員を中心に保護者に年度当初より繰り返し発信していく必要がある。	○フォームでアンケートを実施することで、集計がやすかったり、結果も見やすかったりという良さもある。しかし、保護者からしたら、紙で行うアンケートより不便さもあることを理解して、進めたい。	A
			地域人材の活用をはじめ、地域での学習活動への協力や、保護者と連携を取りながら児童理解を進めるなど協力を得る。	4.年間5回以上の実施 2.各年3回以上の実施 D.児童アンケート満足度70%未満	3.5	A	A.保護者アンケート満足率80%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率70%未満	85	A				
豊かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。	学校・学年だよりやホームページの学校日記に教育活動の様子を発信し、様々な取組への理解を得る。	4.行事の90%以上の実施 1.年間2回未満の更新	3.6	A	A.保護者アンケート満足率70%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率70%未満	87	A	・確かな学力に関する項目については、児童及び保護者アンケートより肯定的な評価を約80%以上を得ている。QubenaなどのICTを活用した学習及び宿題に取り組むことが定着してきた。 ・生活指導事項を通して、課題や問題を抱える児童や家庭について、全教職員も高まり、初期対応に解決につながっているものも増えている。保護者アンケートにおいても、いじめ防止については、肯定的な評価を約85%以上を得ている。	・QubenaやICTの活用については、児童及び保護者アンケートより肯定的な評価を約80%以上を得ている。Qubenaについては、町田市が示している「週1回以上、問題1、200問以上の学習に取り組む。」「をどの学年でも目指し、計画的に学習に取り入れていく。	○Chromebookの活用については、低学年の使用開始時期を早めたり、使用する際の支援は保護者やICT支援員に協力を求めたりしながら、丁寧に進めていく。	A
			学校評価や全校行事後のアンケートに基づいて改善を図る。さらにグループフォームを活用し、回収率を上げる。	4.行事の90%以上の実施 2.行事の80%以上の実施 1.行事の70%未満の実施	3.5	A	A.児童アンケート満足率90%以上 B.児童アンケート満足率80%以上 C.児童アンケート満足率70%以上 D.児童アンケート満足率70%未満	80	A				
豊かな心	多様性を尊重し、自分と共他者を大切にすること意識・態度を育てる。	生命を大切にすること心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。	相手の思いやりの優しさを醸成し、生命を大切にすること心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。	4.90%以上の授業で実施 3.80%以上の授業で実施 2.70%以上の授業で実施 1.70%未満の授業で実施	3.3	B	A.児童アンケート満足率90%以上 B.児童アンケート満足率80%以上 C.児童アンケート満足率70%以上 D.児童アンケート満足率70%未満	84	A	・毎月実施している「心のアンケート」及び年2回行っている「ふれあい月間」を通して、児童の様子を把握するとともに、「いじめは絶対に許されないこと」を引き続き、児童に指導し、児童の意識も高めていきたい。	・「よいこと、悪いこと」をしっかりと認識させながら指導に当たる。その際に、教員間で指導の温度差が出ないように気を付けていく。 ・生活指導事項を通して、課題や問題を抱える児童や家庭について、全教職員も高まり、初期対応に解決につながっているものも増えている。保護者アンケートにおいても、いじめ防止については、肯定的な評価を約85%以上を得ている。	○学級活動等での食育や健康教育において、年間指導計画に基づいた学習を適正に行っていく。	A
			礼節を重んじ、挨拶や互いに助け合うことの大切さを指導する。また、決まりについての考えを深め、規範意識を高める。	4.90%以上の指導場面で実施 3.80%以上の指導場面で実施 2.70%以上の指導場面で実施 1.70%未満の指導場面で実施	3.7	A	A.保護者アンケート満足率90%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率70%未満	88	A				
健康	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実させる。	児童の自己有用感を高め、人との関わりを通して自分も友達も大切にできる態度を養う。	適度な運動をとおして、自分の考えを大切にすることを通してよい生き方について考えさせる。	4.90%以上の授業で実施 3.80%以上の授業で実施 2.70%以上の授業で実施 1.70%未満の授業で実施	3.6	A	A.80%以上の児童が実施 B.80%以上の児童が実施 C.70%以上の児童が実施 D.70%未満の児童が実施	84	A	・保護者アンケートで、肯定的な評価を85%以上得ているが、児童が体を動かす機会が減っていることを感じている。習い事等で運動経験豊富な児童とそうでない児童の二極化が見られている。 ・体育の授業のみならず、運動する経験を継続的にさせていく。外遊も引き続き推奨していく。また、家庭にも運動することの良さを啓発していく。	○Chromebookやスマートフォンのネットマラブルについては、年々増加している。そのため、低学年からの指導や家庭への協力をさらに要請し、強化していく。	A	
			様々な考え方や人それぞれに良さがあることを知り、自分の良さにも気付ける指導を行う。	4.90%以上の指導場面で実施 3.80%以上の指導場面で実施 2.70%以上の指導場面で実施 1.70%未満の指導場面で実施	3.7	A	A.児童アンケート認知率90%以上 B.児童アンケート認知率80%以上 C.児童アンケート認知率70%以上 D.児童アンケート認知率70%未満	86	A				
その他	安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成するための全校体制を徹底する	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	体力テスト結果の分析を生かした授業や体育館、運動の日常化に向けた取組を行い、健康を維持するための素地を養う。	4.90%以上の指導場面で実施 3.80%以上の指導場面で実施 2.70%以上の指導場面で実施 1.70%未満の指導場面で実施	3	B	A.児童アンケート満足率90%以上 B.児童アンケート満足率80%以上 C.児童アンケート満足率70%以上 D.児童アンケート満足率70%未満	84	A	・保護者アンケートで、肯定的な評価を85%以上得ているが、児童が体を動かす機会が減っていることを感じている。習い事等で運動経験豊富な児童とそうでない児童の二極化が見られている。 ・体育の授業のみならず、運動する経験を継続的にさせていく。外遊も引き続き推奨していく。また、家庭にも運動することの良さを啓発していく。	○Chromebookやスマートフォンのネットマラブルについては、年々増加している。そのため、低学年からの指導や家庭への協力をさらに要請し、強化していく。	A	
			基本的な生活習慣の獲得を目指し、家庭と連携した体力向上への取組や健康教育、食育を推進する。	4.90%以上の指導場面で実施 3.80%以上の指導場面で実施 2.70%以上の指導場面で実施 1.70%未満の指導場面で実施	3.3	B	A.保護者アンケート満足率90%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率70%未満	83	A				
その他	自分の命は自分で守るを合言葉に避難訓練、交通安全指導、不審者対応など日頃より指導を徹底する。	安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成するための全校体制を徹底する	自分の命は自分で守るを合言葉に避難訓練、交通安全指導、不審者対応など日頃より指導を徹底する。	4.90%以上の指導場面で実施 3.80%以上の指導場面で実施 2.70%以上の指導場面で実施 1.70%未満の指導場面で実施	3.3	B	A.保護者アンケート満足率90%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率70%未満	79	B	・保護者アンケートで、肯定的な評価を85%以上得ているが、児童が体を動かす機会が減っていることを感じている。習い事等で運動経験豊富な児童とそうでない児童の二極化が見られている。 ・体育の授業のみならず、運動する経験を継続的にさせていく。外遊も引き続き推奨していく。また、家庭にも運動することの良さを啓発していく。	○Chromebookやスマートフォンのネットマラブルについては、年々増加している。そのため、低学年からの指導や家庭への協力をさらに要請し、強化していく。	A	
			自分の命は自分で守るを合言葉に避難訓練、交通安全指導、不審者対応など日頃より指導を徹底する。	4.90%以上の指導場面で実施 3.80%以上の指導場面で実施 2.70%以上の指導場面で実施 1.70%未満の指導場面で実施	3.6	A	A.保護者アンケート満足率90%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率70%未満	86	A				

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準例
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A	成果指標平均 80%以上 ⇒ 評価A	○ 取組・成果ともに十分評価できる
取組指標平均 3以上 3.5未満 ⇒ 評価B	成果指標平均 70%以上 ⇒ 評価B	○ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
取組指標平均 2以上 3未満 ⇒ 評価C	成果指標平均 55%以上 ⇒ 評価C	○ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 55%未満 ⇒ 評価D	○ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。

※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。